

久須々美神社

祭神

祭日 九月七日

社格 村社

所在 飯村 界(北河内郡牧野村大字坂)

○若江郡二十二座大二十座 小二十座

坂合神社二座

祭神

今按明細帳に祭神彦火々出見命瓊々杵命鸕草薙不合命とあるを堺縣諸社細記には所祭坂合部氏祖神と云るは姓氏録和泉神別坂合部火闌降命七世孫夜麻等古命之後也とみえたらばさもあらん歟

神位 陽成天皇元慶七年十二月二十八日庚申授河内國正六位上塚神從五位下

祭日 六月晦日九月二十三日

社格 村社

所在 小坂合村字宮(中河内郡八尾町大字小坂合現)

矢作神社

祭神 經津主神

今按社傳經津主命を祭りしに後世譽田別命住吉大神を配

祀すと云り姓氏録河内未定難姓に矢作、連布都努志乃命之後者とあるを以て考るに社説の如く主神は經津主神一座にますこと著し

祭日 六月十五日

社格 郷社

所在 別宮村(中河内郡八尾町大字別宮)

若江鏡神社

祭神

今按明細帳本社の祭神足仲彦天皇氣良足姫命とあれど疑はし其は河内志に當社のことを階下有石稱雷神岩文德實錄河内國大雷火明命即此れ也とあるを思ふに火明命を祭れるものなるべし火明命は舊事紀に亦名天照國照彦天火明命とみえ延喜神名式大和國城上郡鏡作坐天照御魂神社あるは同神にまし此神の兒天香語山命のこと今神宮記集所引神宮雜例に天地開闢之初於高天原二耳鏡作遠祖天香山命乃八百萬皇神達共爾以銅鑄造之神鏡也とありて鏡作に由あるのみならず三代實錄貞觀八年七月各務郡大領吉雄と云人みえたるは必ず火明命の御末なるべきに當社の次に御野縣主神社あるも徒ならず聞ゆればなり

神位 文德天皇齊衡元年四月丙辰授大雷火明神從五位下

祭日

川俣神社

祭神 日子今實命

今按本社祭神明細帳祭神宇氣母智神少彦名命大年神とみえ堺縣式内諸社細記に俗稱大名持神少彦名神保食神とあれど所祭川俣公祖日子今實命と記し新撰姓氏録河内皇別に川俣公日下部連同祖彦坐命之後也とあるに從へり

祭日 十一月七日

社格 村社

所在 川俣村字南(中河内郡桶根村大字川俣)

弓削神社二座

祭神 高御魂命 天日影翔矢命

今按明細帳に彌賀布都命八幡神鈴鹿大神天滿天神とあれど堺縣式内諸社細記に祭神高御魂命天日影翔矢命と記せるは新撰姓氏録河内神別弓削宿禰天高御魂乃命孫天此和志可氣流夜命之後也とあるによれるならむ故今姑之に從ふ

神位 清和天皇貞觀元年正月二十七日甲申奉授河内國從五位下弓削神從五位上

祭日 六月三十日九月九日

社格 郷社

所在 若江村(中河内郡若江村大字若江)

御野縣主神社二座

祭神 角凝魂命 天湯川田奈命

今按姓氏錄河内神別に美努連角凝魂命三世孫天湯川田奈命之後也とみえ日本紀清寧卷に二十三年八月條に河内三野縣主小根あり天武紀十三年正月庚子三野縣主も美努連も出自共に同じく此國に住りしことは河内とあるにて著ければ此氏人の祖神を祭れるものなること明なり

祭日 九月二十八日

社格 村社

所在 河内郡上之島村字宮(中河内郡三野郷村大字上ノ島)

石田神社三座

祭神

今按明細帳に祭神足仲彦天皇譽田天皇息長足姫命とあれど堺縣式内諸社細記に所祭未詳とあれど今決めがたし

祭日 六月二十一日九月十五日

社格 村社

所在 西岩田村明細帳岩田村(中河内郡玉川村大字岩田)

河内國 若江郡